アジア現代史シリーズ 3

アジア経済研究所

中国
鄧小平の近代化戦略

浜 勝彦 著

浜　勝彦　著

中　国

――鄧小平の近代化戦略

アジア経済研究所

中国

——鄧小平の近代化戦略

筆者紹介

浜　勝彦（はま・かつひこ）
創価大学教授
一九三八年　長野県生まれ
一九六四年　東京大学大学院修士課程（農業経済学）修了、アジア経済研究所入所
一九六八～七〇年　香港（香港大学）・シンガポール（シンガポール大学）派遣
一九八〇～八二年　在北京日本国大使館勤務（特別研究員）
一九八八～九一年　動向分析部長
一九九一年　創価大学勤務（文学部外国語学科中国語専攻）

主著

『中国文化大革命とベトナム戦争』（共著、一九六八年）、『ベトナム以後のアジアと中ソ』（編著、一九七八年）、『経済開放下のアジア社会主義諸国』（編著、一九八五年）、以上、アジア経済研究所。『中国の現在と未来』（三一書房、一九七二年）、『鄧小平時代の中国経済』（亜紀書房、一九八七年）

アジア現代史シリーズ　3

中国――鄧小平の近代化戦略

著者　浜　勝彦

発行所　アジア経済研究所
東京都新宿区市谷本村町42　電話（3353）4231(代)

1995年3月30日発行©　無断転載を禁ず　印刷/製本　三陽社
ISBN 4-258-21003-X　C 3033

アジア現代史シリーズ 3

ISBN4-258-21003-X C3033

はじめに……3
序章……4
1　毛沢東時代から鄧小平時代へ——革命と建設をめぐって……4
(1)革命か建設か　4　(2)毛沢東の建設方針　5　(3)鄧小平の決意　9
2　八〇年代以来の改革・開放の特色……12
(1)改革・開放の一六年　12　(2)四年ごとの改革・開放の高潮　15
第1章　華国鋒の時代（一九七六～七八年）……19
1　権力の特徴……20
(1)時代の概観　20　(2)政策と権力基盤　22
2　近代化目標と政策スタイル……26
(1)毛沢東・周恩来の遺言　26　(2)鄧小平の「十カ年計画要綱」　28
(3)華国鋒の限られた時間表　29　(4)発展政策の枠組み　30　(5)華国鋒のスタイル　31
3　「洋躍進」のパフォーマンス……32

(1)洋躍進 32　(2)一二〇の大プロジェクト 34　(3)二二項目の導入プラント 35　(4)大衆動員方式の空転 36　(5)趙紫陽・万里のアンチモデル 37

第2章　近代化への再出発（一九七九～八二年）……41

1　鄧小平権力の確立……42

(1)時代の概観 42　(2)「真理の基準」をめぐる論争 44　(3)西単民主の壁 45　(4)四つの基本原則 47　(5)華国鋒の退場 50

2　文革の清算と被害者の名誉回復……52

(1)四人組の摘発と清算 52　(2)幹部復活の推進 53　(3)重要案件の解決 53　(4)階級政治差別の廃止 55　(5)「林彪、江青反革命集団」裁判 56　(6)歴史決議 57

3　八〇年代目標の設定……58

(1)中国式近代化目標と国情 58　(2)四倍増計画の策定 60　(3)政治体制改革の提起 61

4　経済の調整と再調整……64

(1)一九七九年の調整 64　(2)調整政策の問題点 65　(3)調整強化へ、陳雲の決断 67

5　改革・開放の高潮……70

(1)経済改革の登場 70　(2)企業改革の推進 71　(3)対外開放の進展 72
(4)農業政策の調整 73　(5)農業改革における突破 74

第3章　近代化の政治的構築（一九八二～八六年）……79

1　党十二回大会と新憲法……80
(1)党十二回大会 80　(2)新憲法の制定 83　(3)民族政策の調整 86

2　若返りと機構改革……88
(1)若返りと世代交代 88　(2)一九八二年の機構改革 88　(3)地方の党政機関の刷新 93　(4)一九八五年の若返り人事 94　(5)行革の効果 96

3　整党の展開……97
(1)整党に関する決定 97　(2)整党の展開 98　(3)「精神汚染」除去キャンペーン 99

4　「一国二制」による香港返還協定の締結……101
(1)対外開放の第二段階 101　(2)香港交渉の進展 102　(3)一国二制度の意味 103

5　一〇〇万人の兵力削減……104
(1)平和と発展の外交政策の展開 104　(2)兵力削減と軍区改編 105　(3)軍の改編と階級制の導入 106

6　政治体制改革の課題……107

(1)党全国代表会議と二十一世紀ビジョン 107　(2)政治体制改革の課題 108
(3)精神文化建設決議 110

第4章　農村から都市へ、改革の本格化……113

1　流通体制の改革……114
(1)一九八二年の転機 114　(2)一九七九年の初歩的改革 115　(3)一九八二年からの改革 116　(4)一九八四年の総合改革 117

2　都市・工業における経済体制改革の展開……118
(1)経済体制改革に関する決定 118　(2)国営企業の改革 120　(3)価格体系の改革 122　(4)計画体制の改革 123

3　複合的経済過熱とその調整……124
(1)新成長メカニズム 124　(2)投資飢餓症 126　(3)複合的経済過熱 127　(4)新たな不正の風潮 131　(5)会社熱と商売熱の背景 133　(6)一九八五年調整政策の発動 134　(7)調整と第七次五カ年計画 136

第5章　胡耀邦の役割……139

1　近代化政治の権力関係……140
(1)胡耀邦権力の特色 140　(2)総書記機能の限界 141　(3)軍の指導権 142　(4)軍内左派の抵抗 143　(5)胡耀邦後継体制への努力 144　(6)軍部の抵抗 145

2 二つの司令部と左右の揺れ……146
(1)二つの司令部の形成 146 (2)陳雲集団の勢力配置 147 (3)胡耀邦、趙紫陽の支持層 148 (4)社会主義商品経済論の承認 150 (5)左右の揺れの発生 151
3 政府政権工作をめぐって……152
(1)整党展開の意味 153 (2)河北省問題 154 (3)広西自治区問題 154 (4)陝西省問題 156 (5)胡耀邦と政府 157
4 胡耀邦の失脚……159
(1)精神文化決議と政治改革 159 (2)学生デモとその背景 161 (3)胡耀邦の辞任 161 (4)胡耀邦失脚の原因 162
第6章 改革の深化と趙紫陽のリーダーシップ……167
1 社会主義初級段階論と政治体制改革……168
(1)ブルジョア自由化反対に枠を設定 168 (2)党十三回大会の特色 169 (3)社会主義初級段階論の意義 172 (4)政治改革構想 173 (5)一九八八年の行革 174
2 沿海地区発展戦略と価格改革……176
(1)沿海地区経済発展戦略 176 (2)経済改革の深化 178 (3)価格改革の問題点 179

3 一九八八年の経済過熱と調整への急転換……182
(1)一九八五年以来の調整政策の限界 182 (2)一九八八年の経済過熱 183
(3)整備、整頓政策の展開 185
4 リーダーシップの危機……187
(1)新権威主義論の登場 187 (2)趙紫陽の政治手法 188 (3)趙紫陽権力の特色 190

第7章 天安門事件と江沢民体制……195
1 天安門事件と趙紫陽の失脚……196
(1)事件の概観 196 (2)事件の背景 197 (3)事件の動き 198 (4)事件の特色 205 (5)鄧小平、趙紫陽、李鵬の役割 207
2 江沢民体制の形成……209
(1)江沢民体制の特色 209 (2)当面の政治課題 210
3 反「和平演変」政策の展開……212
(1)保守派の思想政治工作 212 (2)国際経済制裁と戒厳令解除 214
4 改革の停滞と経済不振……216
(1)経済におけるブルジョア自由化批判 216 (2)三カ年経済調整政策の展開 217 (3)効果上がった経済調整 219 (4)経済不振と構造問題 220 (5)二つの注目すべき変化 222

第8章　南巡談話と市場経済確立への動き……227
1　十カ年計画と八・五計画をめぐる攻防……228
(1)保守的な八・五計画案　228　(2)鄧小平のテコ入れ　229　(3)巨大プロジェクト推進の意味　230
2　ソ連の政変と二つの危機意識……233
(1)両派の危機意識　233　(2)対立の激化　234
3　鄧小平の南巡談話と市場経済論の確定……237
(1)鄧小平の南巡談話　237　(2)市場経済化と鄧小平　239　(3)党十四回大会　240　(4)市場化推進指導部の形成　242
4　改革・開放政策の新展開……243
(1)党中央四号、五号文書　243　(2)対外開放政策の新展開　244　(3)経済体制改革の全面展開　245　(4)メカニズム転換条例と行革　247　(5)描かれたマクロ・コントロール体制の見取り図　248
5　一九九三年の「超過熱」とマクロ・コントロール強化政策……252
(1)一九九二年経済過熱の性格　252　(2)「超過熱」とバブルの発生　253　(3)マクロ・コントロール強化政策　255　(4)一九九四年の経済情勢　256　(5)一九九〇年代後半の経済成長　258
終章　二〇〇〇年への展望……263

(1)経済の新しい質 264　(2)経済が政治をつき動かす 267　(3)開発独裁の完成 268　(4)鄧小平以後の政治 270
略年表……275
索引……298
あとがき……299